

# 令和4年度「重層的支援体制構築推進人材養成研修」 <基礎編> 共通カリキュラム①ライブ研修

2022年9月12日（月） 13:30～16:35

## 本日のタイムスケジュール

時刻	形態 (時間)	内容
13:30	(5分)	• 開会
13:35	講義 (10分)	• オリエンテーション (研修全体について)
13:45	講義 (70分)	• “連携”について考える (トークセッション・講義)
14:55	(10分)	• 休憩
15:05	ワーク (75分)	• 市町村内ワーク ※都道府県同士のワークも実施
16:20	演習ガイド (15分)	• 実践演習①ガイダンス
16:35	—	• 研修終了後、各市町村において実践演習の作業方針や段取り・ 分担を確認して解散

# 1

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

# 1. 本研修（基礎編）の全体像

## — 到達目標

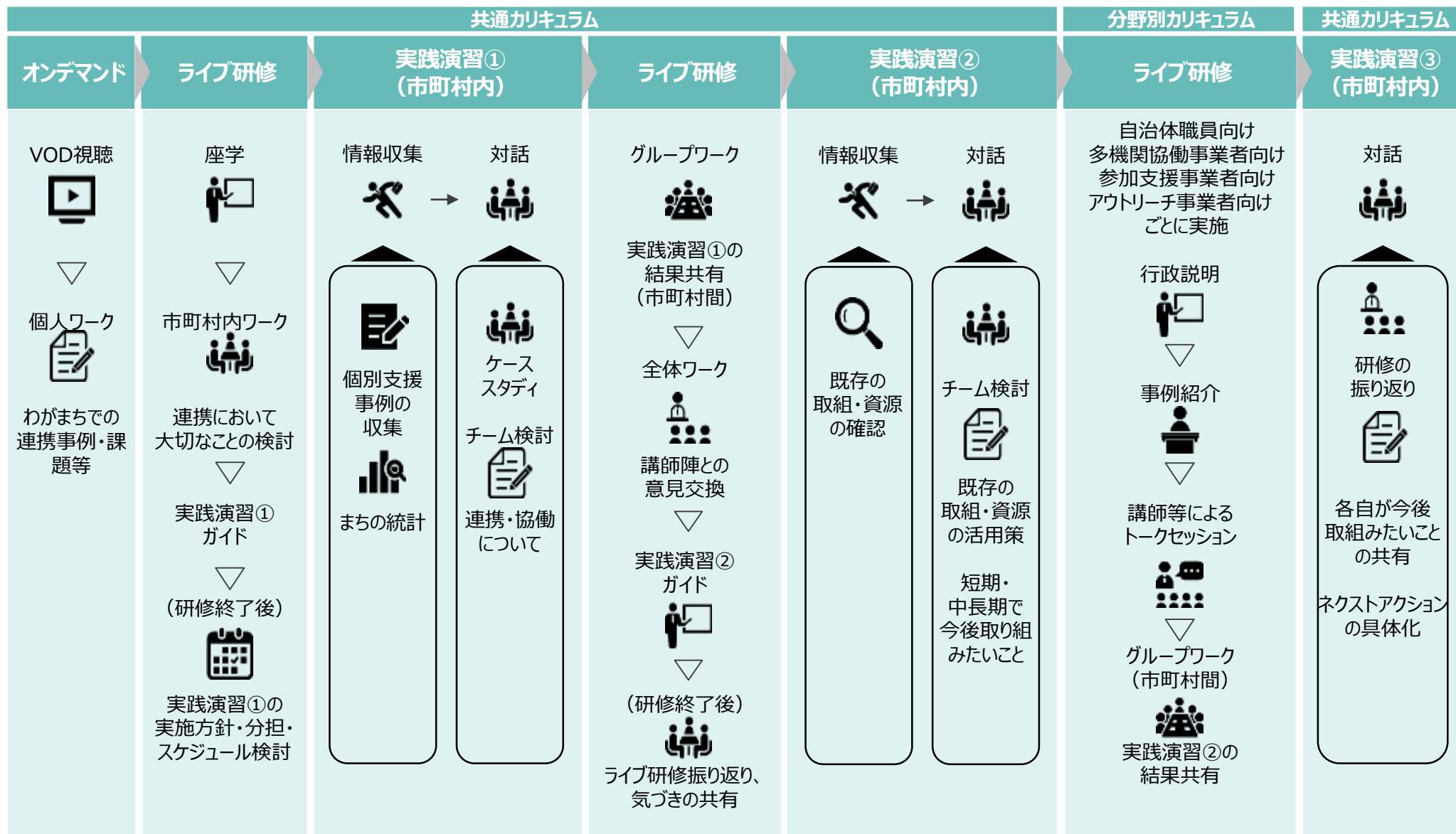
- 重層事業の推進にあたっては、制度の理念や考え方、実践方法を理解するだけでなく、**地域の関係者ととも現実に問題に向き合い、課題認識を共有し、同じ方向を向いて協働**していくことが必要である。
- そこで、基礎編研修の一環として、わがまちの個別支援事例や課題、地域資源、既存の取組等について収集・共有し、対話を通じて協力者との相互理解を深め、**連携して取り組む意義や具体的に取り組んでいきたいことを見つける**ことを目指す。

### 最終的な 到達目標

- ✓ 重層事業の必要性について“腹落ち”している。わがまちで起きている問題や活かせるような取組等を重層の理念とともに自分の言葉で語れる。
- ✓ 庁内外の主要な関係者間※で、研修終了後も主体的に連携が図られる。仲間ができる。※特に、重層事業の枠組みを整備する担当者、分野別事業の担当者、委託事業者の担当者
- ✓ 研修終了後に、庁内外の関係者と協力して取り組みたいことを見出せる。

# 1. 本研修（基礎編）の全体像

## — 研修の流れ



# 1. 本研修（基礎編）の全体像

## －研修の心構え

- 本研修は、各市町村での重層的支援体制の構築に向けた実践型のプログラムとなっています。
- 学んで終わりにするのではなく、関係者同士の連携を深める研修として活用ください。

# 2

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

## 2. 本日の研修内容

### 到達目標

- ✓ 本研修の全体像と、研修の活かし方を理解する。
- ✓ よりよい連携のためにできることを一人ひとりが考える。
- ✓ 関係者それぞれの見えている景色が違うことへの理解を深める。
- ✓ 次回までの実践演習の趣旨と進め方を理解する。

日	タイトル	形態	到達目標	担当
事前課題	・ビデオコンテンツの視聴・ワーク	VOD視聴ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重層事業の目指す姿を理解する。</li> <li>・わがまちでの連携事例、課題、活かせそうな取組を挙げる。</li> </ul>	各自
13:30	・開会	(5)	(厚生労働省挨拶)	厚労省
13:35	・オリエンテーション (研修全体について)	講義 (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎編研修の趣旨とねらいを理解する。</li> <li>・基礎編研修の進め方、参加にあたっての心構えを理解する。</li> </ul>	事務局
13:45	・“連携”について考える (トークセッション・講義)	講義 (70)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携における課題への理解を深める。</li> <li>・連携にあたって求められる姿勢や作法を理解する。</li> </ul>	講師陣
14:55	・休憩	(10)		-
15:05	・市町村内ワーク ※都道府県同士のワークも実施	ワーク (75)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・トークセッションを受けて感じたことや、わがまちの連携を振り返り、チーム内で共有する。</li> <li>・各関係者の視点・見ている景色を知る。</li> <li>・連携において大切なことを考え、共有する。</li> </ul>	講師陣
16:20	・実践演習①ガイダンス	演習ガイド (15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで実践演習に取り組むことができるよう趣旨と内容を理解する。</li> </ul>	事務局
16:35～	・研修終了後、各市町村での実践演習の作業方針や段取り・分担を確認して解散			市町村



## 2. 本日の研修内容

### 本日の講師・スピーカー

**永田 祐** (ながた ゆう)

同志社大学 社会学部 教授

**上原 久** (うえはら ひさし)

Optim's-pt 代表

**朝比奈 ミカ** (あさひな みか)

中核地域生活支援センターがじゅまる センター長  
市川市生活サポートセンターそら 主任相談支援員

**加藤 恵** (かとう めぐみ)

社会福祉法人半田市社会福祉協議会  
半田市障がい者相談支援センター センター長

# 3

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

### 3. 講師によるトークセッション・講義

#### 担当課

地域の実情に応じて4事業に加え、関連施策を相互に重ねて体制整備をはかる。下記の事業を担当課が所管しているわけではないので、目的の共有や役割分担などの調整が必要になります。

#### 国が定める「縦」の制度



生活困窮者  
自立支援制度

子ども子育て支援

介護保険・生活支  
援体制整備事業

連動した取り組みにする  
庁内連携と多機関連携

障害者福祉

成年後見制度の  
利用促進

その他福祉以外の  
関連施策

これをやりやすくするための事業  
が重層的支援体制整備事業

包括的な支援体制

個別の事業の運営は、これまでも経験してきたものだが、それらを**一体的に行うことは初めての経験**。



そのためには、必ず**庁内、庁外**の関係者との**「協議の場」**が必要になる。庁内や関係機関と協議しながら、進めていく必要があります。

### 3. 講師によるトークセッション・講義

多機関の支援内容への理解不足であったり、相談者の主訴や状況をよく聞き取りをしないまま、他機関を紹介したりする

ケースについて関係部署に相談に行くと、断る根拠を探すように聞かれていると感じる

連携すべき課に相談に行っても状況を確認したり、支援会議等に出席してくれないことも。

事前に連絡もなく、相談者を紹介されるが、場合によっては、対象者に当てはまらなかったり、希望する支援がないことがある

情報を提供してもらえない場合が多いため、対応に苦慮することもあります。

多機関協働担当者につながれば「どうにかしてもらえ、解決してくれる」という思いを感じる



## トークセッション・講義のねらいと目的

### • 到達目標

- よりよい連携のためにできることを一人ひとりが考える。
  - 関係者それぞれの見えている景色が違うことへの理解を深める。
- 
- 連携における現場の「もやもや」を題材に、なぜこういった「もやもや」が起こるのか、「受けとる側」の気持ちを中心にトークセッションで整理し、その解決策を探っていきます。
  - あわせて、講義では連携・協働の概念を整理し、その後のワークの共通基盤をつくっていきます。

### 3. 講師によるトークセッション・講義 —Memo

# 4

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

## 4. 市町村内ワーク — 目的

- わがまちの連携の現状をチーム内で共有する。
- 各関係者の視点・見ている景色を知る。
- 連携において大切なことを考え、共有する。



## 4. 市町村内ワーク ー連絡事項

<市町村から一人で参加している人>

→ 一人参加者同士のブレイクアウトルームに移動してください。

<複数の拠点からの参加者がいる市町村>

→ 専用のブレイクアウトルームに移動してください。

<都道府県職員>

→ 都道府県職員同士のブレイクアウトルームに移動してください。

## 4. 市町村内ワーク ー進め方

対話  
(30分)

- 今日の進行役を決める。
- 各関係者の視点・見ている景色を知る。

ワーク  
(15分)

- 連携の阻害要因と解決策を考える。

クロージング  
(30分)

- 個人での振り返り
- チーム内での共有・検討

## 4. 市町村内ワーク —対話

対話  
(30分)

各関係者の視点・見ている景色を知る。

※進行役は、参加人数に応じて全員発言できるように進行してください。

- ✓ これまでに体験した「困った連携」「良かった連携」を共有する。
- ✓ なぜ、「困った連携」「良かった連携」が起こったのか、思い当たる理由もあわせて共有する。
- ✓ 話す人は、以下のどの場面の連携なのかを意識して共有しよう。  
＜連携の場面＞  
[行政×行政（庁内）][行政×専門機関][専門機関×専門機関][行政・専門機関×地域の様々な主体]
- ✓ 聴く人は、話している人が大切にしている想いや視点にしっかりと耳を傾けよう。

## 4. 市町村内ワーク —対話 Memo

- ✓ 話す人は、以下のどの場面の連携なのかを意識して共有しよう
- ✓ 聴く人は、話している人が大切にしている想いや視点にしっかりと耳を傾けよう

### <連携の場面>

- 行政 × 行政（庁内連携）
  
- 行政 × 専門機関
  
- 専門機関 × 専門機関
  
- 行政・専門機関 × 地域の様々な主体

## 4. 市町村内ワーク —対話

ワーク  
(15分)

連携の阻害要因とその解決策を考える。

- ✓ 前半の対話も踏まえ、わがまちの連携の阻害要因とその解決策について、チームとしての考えをまとめる。

## 4. 市町村内ワーク クロージング

クロージング  
(30分)

連携において大切なことを考え、共有する。

- ① クロージング導入（講師より）
- ② 個人ワーク（約5分）  
「連携で、あなたが最も大切にしたいことは何か」について、  
「キーワード(単語)」と「理由」を考える。
- ③ チーム内で共有（約10分）  
②の「私のキーワード」をチームメンバーに説明する。
- ④ グループワーク（約10分）  
③で共有したキーワードから、「最も大切な たった1つのこと」  
を絞り込む。

## 4. 市町村内ワーク ワークローギング Memo

- 個人ワーク（5分）

「連携で、あなたが最も大切にしたいことは何か」について、  
「キーワード(単語)」と「理由」を考える

## 4. 市町村内ワーク ークロージング Memo

- チーム内共有（10分）  
「私のキーワード」をチームメンバーに説明



## 4. 市町村内ワーク クロージング Memo

- グループワーク（10分）  
共有したキーワードから「最も重要な たった1つのこと」を絞り込む。

# 5

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

## 5. 実践演習① ガイダンス

### 一目的

- わがまちの「連携」や「協働」のあり方について、実態に即した検討を行うために、個別支援事例のケーススタディをチームで行う。
- 今後の実践演習を通して、市町村内の関係者間でお互いのことを理解し、より良い「連携」や「協働」につなげる。

## 5. 実践演習① ガイダンス ー 取り組むこと

### ① ケーススタディの題材となる個別の事例をピックアップ

### ② 各事例についてのケーススタディ

うまく連携できたことやできなかったこと、必要な機能等について検討

### ③ まち全体の連携の状況を俯瞰

ケーススタディの結果も踏まえて検討。まちの統計も活用

### ④ 取り組みたいことの検討

まちの現状を踏まえ、「連携」や「協働」についてこれから取り組んでいきたいことをチームメンバーとアイデア出し

### ⑤ まとめ

検討結果を踏まえ、まず最初に取り組んでみたいことや、取り組んでみて気づいたことをまとめ（ワークシート作成）

※ まとめたシートは提出いただき、次回のライブ研修（11月）で、報告・共有いただきます。

## 5. 実践演習① ガイダンス ー 取り組むこと

### ● 個別事例のピックアップについて

- ✓ 複数の支援機関が関わった事例を取り上げましょう。
- ✓ 介護・障がい・子育て・生活困窮などの既存の制度の狭間にある事例や複合化した課題を抱えている世帯などの事例について、まちで実際に見かけるケースを取り上げましょう。  
(8050,ダブルケア,若年妊娠,等)
- ✓ 振り返りができるよう、取り上げるのは過去の事例で構いません。
- ✓ うまく連携できた事例とそうでない事例を、最低 1 件ずつ選定ください。
- ✓ チームでケーススタディにかけられる時間に応じて、実施可能な件数を取り上げてください。  
(特に上限の指定はありません)
- ✓ 個別事例の基礎情報は、支援機関の担当者が自身で書いても構いませんし、チームメンバーが事例担当者にインタビューをして書いても構いません。
- ✓ 日ごろ個別支援に直接関わっていない行政担当者は、この機会に事例担当者にインタビューしてみましょう。

## 5. 実践演習①ガイダンス —作業計画用シート

具体的な作業方針や役割分担は、研修が終わった後にチーム内で相談しましょう

No	実践演習①で取り組むこと	担当	期限
1	個別の支援事例の情報収集（支援者インタビュー等）	各項目の担当と期限 を決めてください。	
2	まちの統計情報の準備		
3	チームメンバー打ち合わせの準備（招集・場所の確保・資料準備等）		
4	ワークシートとりまとめ・提出		
5	<div style="border: 1px dashed gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>取り組むことについては、既定の項目の他に各市町村で自由に設定して構いません。</p> </div>		
6			
...			

## 5. 実践演習① ガイダンス ーケーススタディ用シート (個別の支援事例1件につき1枚)

ケーススタディの題材とする個別事例の情報		
対象者の概要	当初の状況	支援の経過・結果
<p>上段は、チームメンバーと共有するための支援事例の概要をインタビュー等によって記載してください。</p>		
<p>対象者の基本的な情報や望む暮らし・ありたい姿について記載してください</p>	<p>対象者の当初の状況を記載してください</p>	<p>支援の経過・結果を記載してください</p>

上記の個別事例に対してチームで検討しよう	
内容	その要因や理由
<p>うまく連携できたと思うこと</p>	<p>下段は、上段の支援事例に対して、当事者の望む暮らし・ありたい姿の実現に向けてうまく連携できたこと、できなかったことをチームで検討してください。 また、それぞれについて要因や理由として考えられることも検討してみましょう。</p>
<p>うまく連携できなかったことや、あつたらよかったと思うこと・機能</p>	

# 5. 実践演習① ガイダンス —わがまちの課題検討シート（任意）

このシートの活用は任意です。チームでわがまちの今後の取り組みを考える際にご活用ください！

場面・フェーズ	当事者にとって望ましい支援を実現するために・・・	
	①できていると思うこと （「偶然・時々」できていることもOK!）	②できたらよい・あったらよいと思うこと
対象者の状況把握	<p>ケーススタディで挙げた、うまく連携できたこと・あったらよいと思うことを踏まえ、わがまちで、できていることを①に、できたらよい・あったらよいと思うことを②に、支援の場面・フェーズごとに挙げてみましょう。</p> <p>&lt;支援の場面・フェーズのイメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者の状況把握 世帯等へのアプローチ、相談支援までのつなぎなど、相談につながりにくかった世帯に対する関係構築などを想定</li> <li>●支援関係機関における連携と自律に向けた支援 複雑化・複合化した課題について、情報共有や支援方針の検討、役割分担など支援関係機関の連携、本人の生活意識の変化に向けた支援方策の検討や提示などを想定</li> <li>●地域等とのつながり 本人の暮らしの中でのつながりを活かすこと、地域資源の発見や開発、地域社会とのつながりづくりなどを想定</li> <li>●継続的な支援 支援終了後、何か状況変化があった場合の連絡など継続的な支援などを想定</li> </ul>	
支援関係機関における連携と自律に向けた支援		
地域等とのつながり		
継続的な支援		

## ③取り組むべき・取り組みたいこと

①のできていることを、「継続的に・いつも」できるようにするために考えられることや、  
②のできたらよい・あったらよいと思うことを実現するために考えられることを  
チームで検討してみましょう。

③については、  
11月以降の実践演習で、取り組みたい事の優先付けや整理を行いますので、  
現時点では1つに絞り込む必要はなく、考えられるものを複数挙げてみてください。



## 5. 実践演習① ガイダンス ーネクストアクション検討シート（提出用）

本シートを提出し、11月のライブ研修内で市町村間で報告・共有いただきます。

### （1）最初に取り組みたいこととその理由

わがまちのより良い「連携」や「協働」のために、最初に取り組みたいと思うこととその理由を記載してください。

※前ページの課題検討シートを使う場合は、前ページの③に挙げた「取り組むべき事・取り組みたいこと」を踏まえて検討ください。

### （3）ライブ研修で意見交換したいこと

わがまちのより良い「連携」や「協働」を実現していくにあたり、11月のライブ研修で、他の市町村や講師と意見交換してみたいことを挙げてください。

### （2）更に調べたり検討したりしたいこと

取り組みたいことを具体化・実現するために、更に調査や検討が必要と思うことがあれば、記載してください。

### （4）実践演習①を通しての新たな気づき

実践演習①に取り組む中で、新たにわかったこと、チームメンバーが得た気づきなどを記載してください。

チームメンバーの気づきを共有することで今後の連携・協働に向けて大切にしたいことを改めて考えてみましょう。

## 5. 実践演習① ガイダンス —まちの統計について（任意）

まちの現状・将来像を客観的に俯瞰するため、基本的なデータをチームメンバーと共有しましょう。

- ✓ 包括的な支援体制の構築が必要とされる背景には、高齢化や単身世帯の増加などから、血縁・地縁・社縁など様々な「縁」が希薄化し、社会的孤立が進むなかで、ますます複雑化・複合化した課題を抱える方が増加することが見込まれることにあります。
- ✓ そのため、各市町村において、10年後、20年後に、人口構造、世帯構成の変化等から、様々な「縁」から孤立している者や、ちょっとした手助けを必要とする者がどの程度存在するのかイメージするためのワークシート「我がまちの人口世帯推計.xlsx」を用意しましたので適宜ご活用ください。
- ✓ まちの総合計画・福祉計画等の既存のデータがあれば、そうしたデータを使っていたいても構いません。

我がまちの人口世帯推計.xlsx

[推計できるデータ] 人口動態・グラフ、世帯構成・グラフ、つながりの少ない者の数 等

我がまちの10年後・20年後を考えるワークシート

● 各市町村において、包括的な支援体制の構築に向けた検討を行う際には、「なぜ自分たちのまちで、包括的な支援体制を構築する必要があるのか」といった自問自答を行う必要があります。

● 包括的な支援体制の構築が必要とされる背景には、高齢化や単身世帯の増加などから、血縁・地縁・社縁など様々な「縁」が希薄化し、社会的孤立が進むなかで、ますます複雑化・複合化した課題を抱える方が増加することが見込まれることにあります。

● そのため、各市町村において、10年後、20年後に、人口構造、世帯構成の変化等から、様々な「縁」から孤立している者や、ちょっとした手助けを必要とする者がどの程度存在するのかイメージするためのワークシートを作成しました。

● さまざまな施策を講じて、未来の人口構造や世帯構成を大きく変えることは難しいけれど、地域の中で、挨拶ができた、ちょっとした会話ができた人を増やしていくことはできるかもしれません。

● 我がまちの10年後、20年後のイメージを共有し、どのように人と人とのつながりをつくっていくか、といったことを考えるきっかけになれば幸いです。

※ 本ワークシートの留意点  
-本ワークシートで算出される推計値については、あくまでも、10年後、20年後の姿をイメージしていただくために作成したものであり、一定の仮定を置いた推計値となっています。統計的な正確性などを担保しているものではありませんので、ご留意ください。

【推計方法】

● 各市町村の世帯数の推計  
世帯数は、世帯主数に等しいことを利用し、将来推計人口に世帯主率（人口に占める世帯主数の割合）を乗じる『世帯主法』によって算出した。  
「世帯主法」：世帯数＝世帯主数÷人口×世帯主率  
各市町村の世帯主率は算定されていないため、国立社会保障・人口問題研究所の『日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）』による各市町村が属する都道府県の仮定値と同様に推移すると仮定して算出した。

● 生活の支えが必要と思われる高齢者世帯の世帯数の推計方法  
各市町村における男女の高齢単独世帯、高齢夫婦のみ世帯の推計値に、国立社会保障・人口問題研究所が実施した『生活と支えあいに関する調査』（2017年7月）の『「会話頻度」が「2～3日に1回」以下である世帯の割合』、『「日頃のちょっとした手助け」について「頼れる人がいない」とする世帯の割合』、『「（子ども以外の）介護や看病」について「頼れる人がいない」とする世帯の割合』を、それぞれ変じ、生活の支えを要すると考えられる世帯数として算出した。  
※ ひとり親と子から成る世帯において日頃の手助けが得られない世帯の推計方法も同様

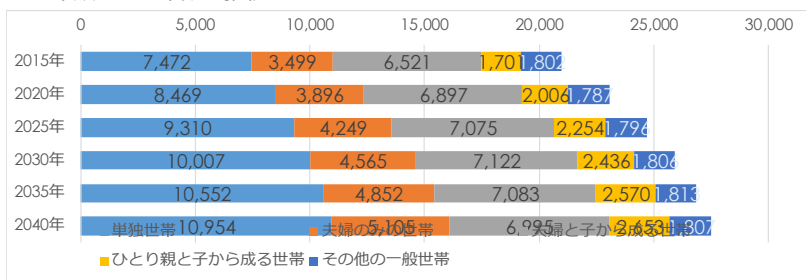
● ひきこもり  
各市町村の年齢別人口に、自2内閣府『生活状況に関する調査』（15～39歳までの若）及び自3内閣府『生活状況に関する調査』（40～64歳までの若）により推計された「広義のひきこもり者の出現率」（※）を乗じて算出した。  
※ 広義のひきこもり者：狭義のひきこもり者（自宅からは出るが、家からは出ない又は自宅からはとんでない、ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける）にふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」者をあわせたもの。

# 5. 実践演習① ガイダンス — まちの統計について (任意)

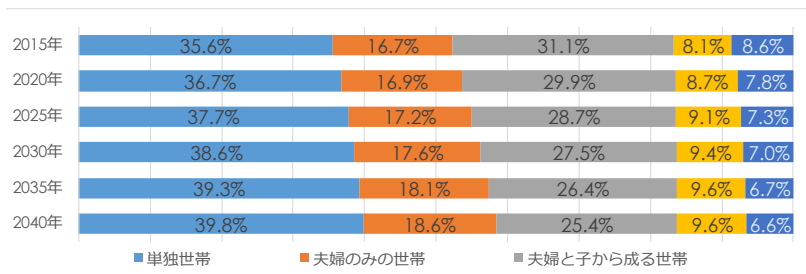
国立社会保障・人口問題研究所のWebサイトから指定のエクセルをダウンロードし、本エクセルにコピー & ペーストすれば、人口グラフ、世帯グラフ、つながりの少ない者などの粗い推計値を把握することができます。  
詳しい作業手順は、エクセル内の「表紙」シートの2ページ目を参照ください。

## 配布するエクセル「我がまちの人口世帯推計.xlsx」上で見られる推計値の例

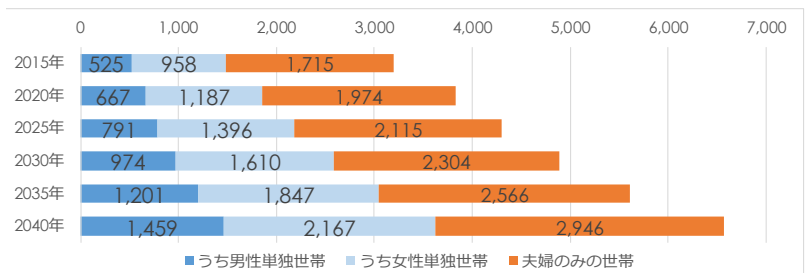
■ 世帯類型別世帯数の推移



■ 世帯類型別割合の推移



■ 世帯主65歳以上の単独世帯・夫婦のみの世帯数の推移



■ 生活の支えが必要と思われる高齢者世帯の世帯数の粗い推計

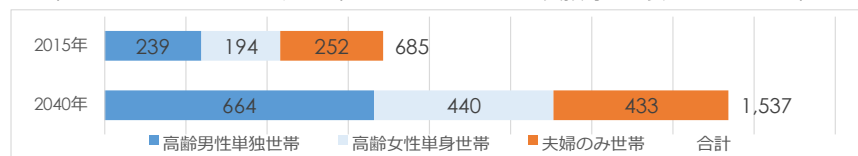
・会話の頻度が少なく、見守りや居場所、参加の場が必要と思われる世帯



< 全世界に占める割合 >

年度	割合
2015年度	3.9%
2040年度	6.9%

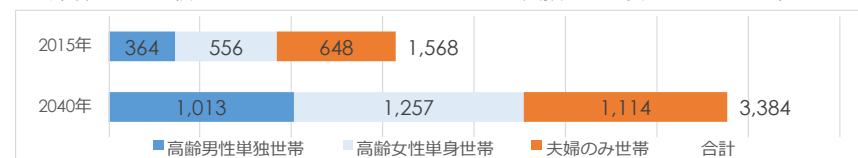
・日常生活のちょっとした手助けが得られず、ときに生活支援等が必要と思われる世帯



< 全世界に占める割合 >

年度	割合
2015年度	3.3%
2040年度	5.6%

・介護や看病で頼れる人がおらず、いざというときに支援者が必要と思われる世帯



< 全世界に占める割合 >

年度	割合
2015年度	7.5%
2040年度	12.3%

# 6

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. 講師によるトークセッション・講義
4. 市町村内ワーク
5. 実践演習①ガイダンス
6. 次回に向けた連絡事項

## 次回に向けた連絡事項

- 次回ライブ研修  
11月15日（火） 9:30～12:30頃まで（予定）  
オンライン（Zoom）
- 実践演習ワークシート提出  
〆切：10月14日（金） 正午  
※ 提出様式、提出方法は別途ご案内いたします。  
※ 提出いただいた内容を確認し、再提出をお願いする可能性もあります。
- 本日の受講後アンケート回答のお願い  
回答URL：<https://questant.jp/q/38XP6FQ0>

